

タカラバイオ株式会社 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算補足資料

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期)業績について **【決算短信9ページ】**

(売上高)

- ・ 「試薬」は154億500万円となり、円安の影響もあり前期比+7億100万円(+4.8%)の増収となりました。
- ・ 「機器」は4億2,600万円となり、前期比+1,500万円(+3.7%)の増収となりました。
- ・ 「受託」は22億7,400万円となり、前期比▲4億2,800万円(▲15.9%)の減収となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、16億5,200万円となり、前期比+3億5,300万円(+27.2%)の増収となりました。
- ・ 以上により、売上高は、197億5,800万円となり、前期比+6億4,100万円(+3.4%)の増収となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、相対的に利益率が高い新型コロナウイルス検査関連試薬の減少や、売上構成の変化等による売上原価の増加により124億4,500万円、前期比▲8億9,800万円(▲6.7%)となりました。

(営業利益)

- ・ 販管費及び一般管理費は、円安の影響もあり、海外子会社の人件費を含む「管理費・その他」が増加しましたが、研究開発プロジェクトの選択と集中により抑制に努めました。以上の結果、当中間期の営業利益は4億1,700万円、前期比▲9億9,300万円(▲70.4%)となりました。

2. 通期の業績の見通しと、期末配当予想について **【決算短信 9ページ・表紙】**

- ・ 中間期の業績は、2024年5月10日に公表した業績予想に対して、売上高は4億4,100万円下回りましたが、営業利益は2億6,700万円上回り4億1,700万円となりました。
- ・ 第3四半期連結累計期間は、特に受託事業の売上高が第4四半期に偏っていることなどから営業損失となる見込みです。
- ・ 2025年3月期通期の連結業績予想につきましては、2024年5月10日に公表した当該連結業績予想を変更せず、前期比で増収増益を見込んでいます。
- ・ 期末配当につきましても、期初に公表した1株あたり17円の配当予想を据え置いています。

3. 試薬事業の状況について

- ・ 当社の研究用試薬の売上高は、海外の構成比が高く(2024年3月期実績で海外比率約77%)、世界各国の経済状況等の影響を受けます。当中間期は円安の追い風もありましたが、米国・中国の貿易摩擦の影響、また欧州の地政学的リスクの影響等から、世界的には依然として、ライフサイエンス研究市場の回復は遅れています。
- ・ 当社は各国の拠点において、グローバル戦略(グローバルで多極的なマーケティング/製造/営業戦略)を進めています。日本においては民間検査センター等へのアプリケーション検査キット、米国においてはRHT(生殖医療技術)分野などのLDT(ラボ開発検査)向けのOEM/カスタム製品、欧州においては遺伝子工学関連のOEM/カスタム製品に注力しています。中国においては中国市場向け新製品の開発や価格対応などを進めています。

(参考) 第2四半期(中間期) 試薬 地域別売上高

(百万円)	25/03期 第2四半期	前期比		
		増減	うち為替レート 影響額	増減率 (為替影響除く)
日本	2,697	▲862	0	▲24.2%
米国	6,781	896	773	+2.1%
欧州	1,645	▲250	189	▲23.2%
中国	3,314	905	253	+27.1%
韓国	594	▲47	44	▲14.2%
印度	371	59	38	+6.7%
合計	15,405	701	1,299	▲4.1%

※ 2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子医療」に加えています。本表は、当該変更を反映して組み替えています。

4. 受託(CDMO)事業の状況について

- 再生医療等製品関連受託は、ベクター製造は増収でしたが、細胞加工は大ロククライアントのプロジェクト数の減少により減収し、さらに細胞加工受託に紐づく品質試験の減少により、全体でも減収となりました。
- 遺伝子解析/検査関連受託は、大型ゲノム解析プロジェクトやシングルセル解析等の新サービスにより増収となりました。

(参考) 第2四半期(中間期) 受託(CDMO)事業売上高

(百万円)	25/03期 中間期	前年同期比 増減	通期売上予想 に対する進捗率	205/03期 通期予想
再生医療等製品 関連受託	964	▲874	17%	5,614
遺伝子解析/検査、 その他受託	1,309	446	30%	4,385
合計	2,274	▲428	23%	10,000

- 2025年3月期(当期)の受託事業の売上高予想の進捗は、中間期(4~9月)では約23%でしたが、ほぼ計画通りの進捗となっています。

5. 遺伝子医療分野の状況について

- 遺伝子医療分野は、mRNAワクチン開発用製品等の新製品の発売に加え、レトロネクチンの売上が増加したことなどから、製造補助剤(Ancillary materials)の売上が増加し、前期比3億5,300万円増収の16億5,200万円となりました。

(参考) 第2四半期(中間期) 遺伝子医療分野売上高

(百万円)	25/03期 中間期	前年同期比 増減	うち為替レート 影響額	増減率 (為替影響除く)
遺伝子医療	1,652	+353	+156	+15.2%

※ 2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子医療」に加えています。本表は、当該変更を反映して組み替えています。

以上